

支倉常長フェロー報告書

提出日 2013年 1月 19日



申請者	氏名	永井 友朗
	所属・職	生命科学研究科 博士課程3年
出張期間	2012年 12月 13日 ~ 12月 20日	
渡航先	米国 カリフォルニア州サンフランシスコ	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Furry is a positive regulator of microtubule acetylation in mitotic spindle	
得られた成果など	<p>この度、2012年12月13日~12月20日の日程で、米国カリフォルニア州サンフランシスコの Moscone Center にて開催される American Society for Cell Biology Annual Meeting (以下、本学会と略)に参加してまいりました。本学会は細胞生物学分野においては世界最大規模の学会であり、日程中会場は大変活気に溢れており、また興味深い発表が数多く行われており大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。</p> <p>私は、ポスターセッションにおいて「Furry is a positive regulator of microtubule acetylation in mitotic spindle」という表題で発表を行いました。Furry は高度に保存された遺伝子であり、様々な生物種を用いた研究がなされておりますが、他の生物種の Furry 関連遺伝子のシグナル経路の研究の方々と実際に議論を交わし、多くの貴重なご意見や示唆を頂きました。また私たちの提唱するモデルの独自性や位置づけを再確認し、今後の研究を展開するためのアイデアを数多く得る事が出来ました。またもう一つのキーワードである微小管の翻訳後修飾に関しては、非常に多くのテーマが展示されており、私自身がそれまで抱いていた疑問点を他の研究者の方々と共有し、また議論の中から貴重な知見を得る事が出来ました。会場では著名な大学教授から若手研究者まで参加者が垣根を超えた議論がなされており、私も多くの研究者と交流する機会を得ました。私自身少ない海外経験の中で貴重な体験をし、今後の研究生活に大きな励みとなりました。このような機会を与えて下さった支倉常長フェローシップに心より感謝申し上げます。</p>	